2016.03.14 日本海新聞 19面

水耕栽培で安定生産

鳥取市青谷町の廃校舎（旧日置谷小）を活用し、発光ダイオード（ＬＥＤ）照明による葉物野菜の栽培に取り組む「愛ファクトリー」（木村由美子社長）の植物工場の操業から２年がたった。昨夏の設備投資で導入した土を使わない水耕栽培も順調で、野菜の安定生産につながった。これを機に来年度は、首都圏などで販路開拓に向かう。

廃校活用のＬＥＤ野菜工場

昨年７月に稼働した水耕栽培の植物工場

愛ファクトリー（青谷）

菌などをシャットアウトした密閉型の植物工場は天候に左右されず、軽作業で農薬を使用しない高品質の野菜を一年中栽培できるメリットがある。現在、障害者12人を含む社員15人が、安心・安全な付加価値の高い約30種類の野菜づくりに従事している。

１階の１４０平方㍍で

首都圏など販路開拓目指す

は、地域ブランド野菜「青谷クリスタル」として売り出しているアイスプラントのほか、ルッコラなどを土耕栽培。昨年7月からは2階の76平方㍍で、培養液を使った水耕栽培でレタス、ルッコラ、イタリアンパセリなどを栽培している。

培養液の進化などに伴い、土耕栽培と比べてより均等に生育し、収穫までの期間を短縮できるなど、育成コントロールや計画栽培がさらに容易になる水耕栽培に取り組むため、改修費と設備の導入で約3千万円を投資した。水耕栽培で、栄養成分を人工的に添加した機能性野菜の栽培にも挑戦していく考え。

安定生産が可能になったことで、県内外のホテル、結婚式場、飲食店、イベントなどへの出荷も増え、単月の売り上げは水耕栽培を始める以前の2倍を維持するなど、成果は上々。今後は校舎の未利用部分を活用した水耕栽培の拡大も視野に入れる。

「地域のシンボル的存在だった学校を使わせてもらっているので、〝青谷〟の地名を使ったブランド野菜をつくるなど、地域全体を盛り上げていきたい」と話す木村社長。最近では東京都内の老舗レストランとの取引も始まっており、ニーズの高い首都圏などで販路拡大に本腰を入れる。

鳥取市の誘致企業である同社は、２０１４年１月に植物工場を操業。今年5月、障害者雇用の促進に関する法律に基づき、親会社のＩＴ企業「インフォメーション・デベロプメント」（東京都）の特例子会社として認定を受ける。４月には初めて新卒の障害者（２人）を雇用する予定。